

# 「集」待つとよ 仲間とともににはよ来んね九州 大分の地で開催

JR連合青年・女性委員会

議長

沖島 裕章



JR連合青年・女性委員会は、2022年5月22日～23日にかけて、大分県杵築市を中心に、「第26回ユースラリー」を開催した。JR連合九州地方協議会青年・女性委員会を準備機関とし、全国から総勢80人を超える青年・女性組員が集結した。

2020年はコロナ禍の影響で中止し、昨年はWEBを活用した形での開催となったユースラリーだが、今年は3年ぶりに「対面」で開催し、系統や単組の「絆」を越えた交流を図り、「横の繋がり」を作ることができた。

## コロナ禍での中止やオンライン開催を経て 3年ぶりに「対面」での開催を計画

JR連合青年・女性委員会では、JR連合に集う多くの仲間と交流を図り、相互理解を深める重要なレクリエーション活動として、「ユースラリー」を開催している。1996年8月3日に第1回ユースラリーを仙台で開催して以降、毎年準備機関のエリアを持ち回りで開催し、全国の青女組員との交流を図ってきた。2013年からは準備機関を単組から地方協議会に変更して開催し、今回で26回を数えることとなった。

2019年の第24回ユースラリーにおいては、参加しやすさを考慮して、それまで定例化していた2泊3日の行程を1泊2日に見直し、18単組の参加を実現していた。

こうした中、2020年のユースラリーは、九州地協を準備機関として計画を進めていたが、年初からの新型コロナウイルス感染症・感染拡大の影響により、残念ながら中止の判断を行った。また、昨年開催した第25回ユースラリーは、コロナ禍が



ウォークラリーで仲間の絆をさらに強く固め合った

続いていることを考慮し、各地のサテライト会場をオンラインで結ぶ形式で開催した。

今年開催の第26回ユースラリーは、3年ぶりとなる対面での開催をめざし、準備を進めてきた。グループ労組の仲間も実行委員に選出したうえで、ユースラリー実行委員会を計5回開催し、コロナ禍の中でも出来る企画を練り上げてきた。新型コロナウイルス感染症の感染者数が増減する中ではあったが、感染対策を万全にし、安全な環境で参加者が交流を深めることができるよう、細心の注意を払った。



レクリエーションで、「楽しく、明るく元気よく」和気あいあい

人と人が直接会うことには重要な意義があり、JR連合の旗の下に集う全員が仲間であるという思いを込め、『集』待っつよ 仲間とと

## 対面のレクリエーションで活発に交流 民主化当該3単組組合員との「横の繋がり」強化

第26回ユースラリーの1日目は、杵築市の住吉浜において、屋外を中心としたレクリエーションを行った。フリースロー対決など5種類のレクを用意し、全国から集まった仲間が互いに親睦を深めた。民主化当該3

もにはよ来んね九州」をテーマに選定し、大分県杵築市を中心として1泊2日での開催とした。

単組のJR北労組とJREユニオン、貨物鉄産労からも多くの参加者を迎え、リモートでは味わえない有意義な時間を過ごすことができた。夜には食事会や交流会、花火大会を行い、所属する単組や系統を越えて、活発

な交流を図ることができた。

2日目は、参加者をグループに分けて大分市や別府市でウォークラリーを行った。各チームは、砂湯や水族館、別府地獄めぐりと称される観光コースなど、抽選で決められたスポットを巡り、大分県内の名所を満喫した。満喫するあまり、中には時間内に戻れないチームもあったが、全チーム怪我無くゴールにたどり着いた。閉会式では、写真を繋いだムー

## 青年・女性組合員の視野を広げ 支え合う仲間づくりの機会を

昨年から今年にかけて、JR北労組と貨物鉄産労に多くの仲間が加わった。コロナ禍により青女活動が展開しにくい状況ではあったが、地道な声掛けや、HP・SNSでの情報発信が功を奏した成果と分析している。この新たな仲間の一部が今回のユースラリーに参加した。若い組合員にとって本行事は、他JRの労使関係を知ることができると、見識を広める重要な機会であり、民主化闘争にも資する取り組みになっている。

ちなみに本年春には、3年ぶりに函館線・稲穂駅前にあるJR北海道

ビーが上映され、濃密な2日間を振り返った。

3年ぶりに対面で開催した今回のユースラリーについて、参加者からは「また来たい」「とても有意義だった」などの声が聞かれた。JR北労組・JREユニオン・貨物鉄産労の仲間からも、「JR連合の民主的で開かれた運動を知ることができた」「このような楽しいイベントをもっと仲間に広めた」といった感想を聞くことができた。

の研修センター前で新入社員に対する加入促進行動を行ったほか、青年・女性委員会役員と幹事会をJR北労組事務所で開催し、JR北労組の組合員と意見交換を行うなど、幹事会として、新規加入者に対してJR連合の身近さを伝える活動も展開してきた。

JR連合青年・女性委員会は、ユースラリーをはじめとして、これからのJR産業を支える青年・女性組合員が必要な知識を習得し、視野を広げ、さらには支え合える仲間を作る機会を設けるべく、基本組織と連携して取り組んでいく。